

ヨハネの福音書 8 章 31 節～32 節

2026 年 5 月 10 日 山岡浩之

## 「福音 A to Z」

(ヨハネの福音書 8:31～32 朗読)

### お祈りへの感謝

おはようございます。今回の青年キャンプも皆さまの祈りに支えられ、事故や怪我もなくそれぞれが祝福とめぐみを受け取って帰ってくる事が出来ました。皆様のお祈りに感謝いたします。ありがとうございました。今後も引き続き青年たちの必要を覚えてお祈りして頂ければ幸いです。

また、例年行われているこの青年キャンプ報告礼拝ですが、今回は四つのポイントに分けてお話しをしたいと思っています。一つ目は今回のキャンプについての報告、二つ目はキャンプの講師である篠原基章先生のご紹介、三つ目は語られたメッセージについての報告、四つ目はメッセージへの応答として「キリストと共に破れ口に立つ」ということについて共に考えてまいりたいと思います。

### 1. キャンプについての報告

それでは一つ目の今回のキャンプについての報告です。今回の青年キャンプは 5 月 2 日から 5 月 4 日にかけて、群馬県みなかみ町にある日本バイブルホームにおいて、総勢 40 名以上の参加者の中、東京基督教大学、略して TCU の学長である篠原基章先生を講師として招き行われました。

この少子高齢化の時代に青年が 40 人以上いるって凄いことですよね。TCU では学生のことを宝であると言って下さるのですが、この土浦めぐみ教会の宝である青年たちを私たちも大切にしたいと思っています。

また、それだけではありません。なんと、今回はオーバーエイジ枠として既婚者である三人の男性たちも加わって下さり、フリータイムの際には恋愛結婚座談会と称して、それぞれの奥さんとの馴れ初めや、結婚生活で受け取っためぐみ、家庭において大事にしていることなどを、それぞれがお話しして下さいました。

参加者からの質問タイムもあり、その中で夫婦の価値観が必ずしも同じでない時にどうしますかという質問があったのですが、「妻の気持ちに寄り添うことが私は愛だと思っている」というような名言が飛び出した時には、私も心の中のメモ帳にそっとメモを取りました。

今回の青年キャンプでは、ぜひ奥様方にも参加して頂いて女性陣の意見もお伺い出来たらなと思います。

### バイブルホームの PPT

そして、会場となった日本バイブルホームは、緑豊かな森林、川のせせらぎと鳥のさえずりが聞こえてくる中で、聖書のみことばに耳を傾けながら、温泉も 24 時間入りたい放題ということもあり、心も体も整えられる素敵な空間でありました。

また、季節柄でしょうか。カメムシが大量発生しており、礼拝中にも「ぽとっと」天井から落ちてきたり、人間めがけて飛んできたりして私たちを和ませてくれました。この神様が創造された世界では、私たちだけでなく、虫たちも共に神様を賛美し礼拝しているのだなと、そう思われる貴重な体験をすることが出来ました。

この日本バイブルホームを運営されている、前職はロケットエンジンの開発者という異例の経歴を持つ、トマス・ティアニ先生もとってもチャーミングなお方でした。

例えば、トマス先生の人柄を現すエピソードとして、参加者全体へのアナウンスとして、部屋にある石油ストーブの説明があったのですが、その時に「部屋にストーブがありますが、夜はつけっぱなしにせずに消して下サーイ。でないと声がこんな風になってしまいマース」というアメリカンジョークが私は一番印象に残っています。

また、少しだけトマス先生からキャンプ場の必要についてお話を伺いましたが、夏にはキャンプ場の奉仕者が沢山必要なそうです。このキャンプ場の必要も満たされるように、全国の教会から奉仕者が起こされていくように、ぜひ皆様にも覚えてお祈りしていただけたらと思います。

## 2. 篠原基章先生のご紹介

### 篠原先生 PPT

続けて、二つ目です。講師としてお招きした篠原基章先生についてご紹介いたします。篠原先生は私も 3 月まで在籍しておりました。東京基督教大学の学長を 2024 年の 8 月から現在まで務められています。

篠原先生ご自身も TCU を卒業後、海外で活動、留学されていたこともあり英語も堪能で、以前は TCU の男子寮の寮主事も務めておられたこともあり、青年の気持ちにも寄り添って下さる素敵な先生です。

実は私も学部の卒業研究の時に篠原先生に論文の指導をして頂いたのですが、論文が完成した時にお祝いですとケーキを買ってきてくれて一緒に TCU の食堂で食べたことを今でもよく覚えています。

また篠原節ともいえる、独特の語りが特徴の先生でもあります。今回のキャンプでも、「うん、そうかー、はあー、いやー、なるほどー」といったように、この篠原節は健在で安心しました。

また、篠原先生の専門は宣教学です。宣教学とは異文化コミュニケーションや過去行われた世界宣教の方法を研究することで、現代における伝道の在り方を模索していく学問です。その学問の先生にふさわしく、「いやーもう自分は古い世代の人間だから」と、今回のメッセージのために、ご自分の大学生の娘さんから若者に届く言葉をリサーチして来て下さったそうです。メッセージの中では Ado とかヒロアカとかアンパンなどが若者への言葉として盛り込まれていました。

そして、土浦めぐみ教会のことも大好きな教会だと言って下さいました。なんでも篠原先生が TCU で学んでいた時に、長期の休暇の際は土浦めぐみ教会でこっそり奉仕をされていたそうです。以前も土浦めぐみ教会で講師としてお招きしたことがあったと聞きましたが、また何かの際に篠原先生のお話を伺う機会を持てたら嬉しいですね。

### 3. キャンプメッセージについての報告

それでは、ここからは三つ目のキャンプの中で語られたメッセージについて分かち合いたいと思います。今回のキャンプでは合計 4 回のメッセージが篠原先生を通して語られました。ですが、その前に忘れてはならないのがキャンプ初日の出発前に土浦めぐみ教会のピスガで、青年主事代理の公文先生を通して語られたヤコブの手紙 2 章 8 節～20 節のメッセージです。

この箇所は、ヤコブの手紙 2 章 17 節にあります「同じように、信仰も行いが伴わないなら、それだけでは死んだものです」というみことばが示すように、信仰の現われとしての愛の行いが語られている箇所です。

そこから、この青年キャンプは、ただ自分たちが楽しむだけでなく、みことばに聞き神さまと自分に向き合う教会のキャンプであること。自分は洗礼を受けているから、もう救われているから関係ないとは思わずに、篠原先生を通して語られるメッセージを聞くこと。

イエス様の十字架は自分にとって一体どのような意味があったのか、自分の信仰についても一度はじめから考えてみる。ということを用として語って下さいました。

青年たちの心の中にもこのメッセージは届いていたようで、キャンプ中のメッセージの分かち合いの中でも、今回のキャンプはまっさらな気持ちで聞きたい、素直にメッセージを受け取りたいということが、分かち合われており、私たちの心を開いてくれたメッセージがありました。

### テーマについて

そして、ここからが篠原先生から語られたメッセージについての報告です。まず、今回のキャンプのテーマから確認したいと思います。

ヨハネの福音書 8 章 31 節～32 節「イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。『あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします』」

今回のキャンプのテーマはヨハネの福音書 8 章 31 節～32 節をテーマ聖句として、キャンプ委員と講師の篠原先生によって提案された「福音 A to Z」です。

これは簡単に説明すると、福音は信仰生活の ABC すなわち入り口ですが、福音を信じて「はい、終わり」ではなく、このイエス様の福音に最後までとどまり続けるということ、入り口だけで終わらないということです。

イエス様が「わたしにとどまりなさい」と、最初から最後まで私たちにイエス様の福音にとどまり続けることを求められていたように、私たちもこの福音にとどまりながらキリストと共にこの世界の破れ口に立っていくということです。

つまり、自分を捨てて神様に自分を捧げる生き方について、すなわち、献身について一貫したテーマとして語られていました。そして、この献身とは牧師や神学生だけのものではなく、全てのキリスト者に神様が願っておられることでもあります。

## キャンプメッセージ

この献身というテーマの中、一日目の土曜日の夜のメッセージでは、テーマ聖句である、ヨハネの福音書 8 章 31 節、32 節から、「キリストにある自由」と題して、私たちの中にある偶像とは自分中心の生き方であること、自分さえ気持ちよければそれでいいという生き方であることが語られました。しかし、真理であられるイエス様がこの偶像崇拜という罪の奴隷の状態から私たちを解放し自由にして下さったことが語られました。

二日目の朝の主日メッセージではルカの福音書 9 章 23 節、24 節から「イエスは皆に言われた。『だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負ってわたしに従って来なさい。じぶんのいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを救うのです』」というみことばから、「キリストに自分を捧げる生き方」と題して、自分を捨てるということについて共に考えました。これはこの後に詳しく話したいと思いますが、篠原先生の献身の証が語られ、自分を捨ててイエス様に従っていくということが具体的にどういうことなのかを分かりやすく私たちに教えて下さいました。

二日目の夜の主日メッセージでは、ヨハネの福音書 11 章 25 節～26 節から「イエスは彼女に言われた。『わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬことはありません。あなたは、このことを信じますか』」というみことばから、「キリストにある新しいいのち」と題して、復活信仰がキリスト教の要であること、そこから復活の希望を信じている者として、死ぬことによってもイエス様を証ししていくこと、キリスト者の殉教について語られました。その中でクリシタンの二十六聖人の殉教や、TCU の名誉教授である湊晶子先生の言葉を引用して「迫害の時が来たら笑顔で死にましょう」という強烈な言葉から、私たちに自分は本当に復活の希望を信じているのかという強い問いが投げかけられました。

三日目の月曜日、最終日の朝には、マタイの福音書 5 章 9 節「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです」というみことばから、「キリストと共に破れ口に立つ」と題して、人間の墮落によってこの世界には、神と人との破れ、自分と自分との破れ、人と人との破れ、社会と平和との破れという四つの破れが生じたこと、そして、今自分自身が派遣されている破れ口は一体何処であるのかということが一人一人にチャレンジされました。

## 篠原先生の献身の証

もっと詳しくすべてのメッセージを報告したいところですが、時間の関係上すべてを報告することは出来ませんので、この四つのメッセージをまとめていると私が思った、篠原先生の献身の証を分かちあいたいと思います。

篠原先生の献身の証はこのようなものでした。篠原先生はクリスチャンホームで育ち日曜日には教会にちゃんと行く子どもでした。小学生の時は聖書キャンプにも良く参加していて、イエス様の福音を何度も繰り返し聞いてこられました。

その中で篠原先生は中学生の時から自分の罪の問題と格闘してきました。自分の中にどうしても解決できない罪の性質があることに気づいていました。神様の言葉に従って行きたいという気持ちがありながらも真逆のものを欲している自分がいました。

篠原先生は変わらない罪深い自分と神様のさばきへの恐ろしさから、高校三年生の春に自分ではじめて日曜日以外に聖書を手に取り読みました。それは救いを求めてではなく、罪人を神様はどのようにさばくのかということを知るためでした。

なぜなら、小さい頃から神様のめぐみの中を歩んできたにもかかわらず、高校一年生の時に洗礼を受けたにもかかわらず、罪の中に留まっている自分、罪に引かれている自分、その私を神様はもうお赦しにならない。神様は私に怒っている。私は救われることはない、篠原先生は自分の中で結論付けていたからです。

そのような心境の中、暗い部屋の中で、篠原先生は聖書をむさぼるように読みました。さばきに関する箇所もたくさん読みました。そしてペテロの手紙第二 3 章 9 節のみことばが目に留まりました。

ペテロの手紙第二 3 章 9 節「主は、ある人たちが遅れていると思っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです」

この箇所を読んだ時に、篠原先生は神様の愛による忍耐を見出しました。神様の愛の忍耐が篠原先生をすでに覆っていたのです。篠原先生の心に熱いものが湧き上がって来て目からは涙がぼろぼろと流れました。篠原先生は神様のさばきについて聖書を読む中で罪人を覆い隠す神様の愛に出会ったのです。

そして、篠原先生はこの時にこれまで何度も何度も繰り返し聞いてきた、イエス様の十字架の身代わりの死の意味がはっきりと分かりました。イエス様が自分の破れ口に立って神様にとりなして下さっていたことがはっきりと分かったのです。

自分では解決できない自分の罪の問題のために、イエス様の身代わりの死、贖いの死が必要だったのだと気づきました。十字架のメッセージが知識ではなく経験として迫ってきたのです。

そして、このとき篠原先生は神さまに小さい献身の祈りをしました。「神様、十字架は私のためだったんですね、私の人生をあなたに捧げます。あなたがするようにとすることをする者にならせてください」

このようにして、篠原先生は自分の罪がイエス様の十字架によって赦されたこと、そして自分中心に生きる人生を捨てて、イエス様と共に歩んでいく者、キリスト共に破れ口に立つ者とされていったのでした。

このように今回のキャンプメッセージは、自分の罪とは一体何であるのか、イエス様の十字架は自分にとってどのような意味があるのか、罪赦されたものとして自分を捨ててどのようにこれからイエス様に従って歩んでいくのか、キリスト共に破れ口に立つとはどういうことなのかを、考えさせられる内容でありました。

#### 4.メッセージへの応答

それでは四つ目。メッセージへの応答です。私はこのメッセージを聞いて、その応答として、私はこのキリストと共に破れ口に立つということが、青年だけでなく、今土浦めぐみ教会で繰り返し語られている神様からのチャレンジなのではないかと思いました。

なぜかと言いますと、私もキャンプから帰って来て、5月3日の主日礼拝の動画を見たのですが、先週もケニア宣教師である市橋先生を通して、エゼキエル書37章の枯れた骨からこの世界の破れ口についてのことが語られていました。また、コリント13章にある忍耐の愛によって、ケニアの子どもたちの破れ口が覆われ修復されたことも語られていました。

このメッセージを聞きながら私は、市橋先生はキリスト共に破れ口に立っている人なのだなと思いました。そして、そのキリストと共に破れ口に立つ人が、では皆さんはどうしますかと、あなたはキリストと共に破れ口に立ちますかと、問いかけているように、私には市橋先生のメッセージが聞こえたのです。

ですから、私は青年キャンプのメッセージを聞いて、また土浦めぐみ教会での主日のメッセージを聞いて、神様は今私たちにイエス様と共に破れ口に立つ人を新しく探し求めておられると思ったのです。

### キリストと共に破れ口に立つ

では、この破れ口とは一体何を意味しているのでしょうか。破れ口についてはエゼキエル書 13 章 5 節に詳しく記されています。

エゼキエル書 13 章 5 節「あなたがたは、主の日の戦いに耐えられるように、破れ口に登ったり、イスラエルの家の石垣を築いたりしなかった。」

「破れ口」とは元々の意味は敵の侵入をゆるしてしまう城壁や壁の崩れを意味しますが、霊的な意味では「破れ口」とは神様との契約違反のことであり、それゆえに神様の怒りから無防備な状態になっていることを意味しています。

もう少し分かりやすく言うと、神様の前に罪を犯して、神様との関係が崩れているにもかかわらず、悔い改めることをせずに、そのままにされている、自分と神様の関係の破れ、それが「破れ口」です。

そして、神様は主の日、つまり最後の審判の日に、その破れ口からその人めがけてさばきのために攻めて来られます。ですから、「破れ口」とは神様の怒りと対面するととても危険な場所なのです。

また、「破れ口に登る」とは、元々の意味は城壁や壁が崩れた場所において敵の侵入を阻止するというのですが、霊的な意味では「破れ口に登る」とは人々のために、神様と人々の間に立って神様に執り成しをすること、神と人との間に立って仲介することを意味しています。

さらに、「石垣を築く」とは、元々の意味は崩れた石垣を築き直すことで城壁の中に住む者たちを守るというのですが、霊的な意味では人々の罪を指摘し神様に立ち返らせるということを意味しています。

ですから、「破れ口に立つ人」とは、神様の怒りと対面しながら、人々が神様に立ち返り、悔い改めるために、人々が滅びることのないように、神と人との間に立って命を懸けて執り成す人のことです。

人間に果たしてそんなことが可能なのか、私も含め皆様そう思われることだと思います。しかし、歴史上ただ一人このことを成し遂げられたお方がおりました。それが神のひとり子主イエス・キリストです。神様ご自身が十字架によってこのことを成し遂げて下さったのです。

そして、このイエス様によって自分の破れ口を修復された人が、「キリストと共に破れ口に立つ人」とされていくのです。自分一人が破れ口に立つのではありません、イエス様と共に破れ口に立つのです。

私たちの破れ口はもう修復されたでしょうか。もう修復されているなら、次に私たちがキリストと共に立つ破れ口は一体どこでしょうか。神様は私たちをどこに遣わそうとしておられるのでしょうか。神様の導きを求めて共に祈りたいと思います。

### お祈り

『私は主が言われる声を聞いた。「だれを、わたしは遣わそう。だれが、われわれのために行くだろうか」私は言った。「ここに私がおります。私を遣わしてください。』イザヤ書6章8節

恵み深い天の父なる神様。本日はキャンプの恵みと語られたメッセージへの応答として、自分自身の破れ口はどこなのか、また私たちがイエス様と共に遣わされている破れ口はどこであるのかを、皆で共に考えました。

どうか、続けてこの礼拝後にもイエス様がここにおられるお一人お一人に色々な方法で主ご自身が語り掛けて下さり、それぞれの進むべき道を主が明確に指し示して下さいますように願います。

また、個人だけでなく、信仰共同体として、キリストの体として、土浦めぐみ教会が今後進むべき道も、どうぞあなたがお示してください。このお祈りを愛する主イエス・キリストの御名によって御前におささげ致します。アーメン。